

郷土の歌人のぶ

牧水像に献酒、朗詠

延岡顕彰会と延岡東R C

延岡総合文化センター

「第36回若山牧水生誕祭」は23日、延岡市東浜砂町の延岡総合文化センター正面玄関前であり、若山牧水延岡顕彰会（飯千喬啓会長）と延岡東ロータリークラブ（柳田次雄会長、R C）の会員が郷土の歌人をしのんだ。



献酒を行う出席者

新型コロナウイルス感染症の影響で昨年連続しての縮小開催となり、主催する両団体から11人が出席。飯千会長は「牧水の歌は全国で愛唱されている。みなさんともに牧水の心、歌に込められた思いを顕彰し続けていきたい」とあいさつ。柳田会長は、教師だった

が出席。飯千会長は「牧水の歌は全国で愛唱されている。みなさんともに牧水の心、歌に込められた思いを顕彰し続けていきたい」とあいさつ。柳田会長は、教師だった祖母が1925（大正14）年から3年間、坪谷小学校に赴任していた話を披露し（後年に）牧水生家を訪れた際、この家に家庭訪問したことがあると聞いて驚いた。今の自分



歌を朗詠する塩月理事

の立場も何かの縁だと思ふ」と話した。会場では、同顕彰会の

塩月隆久理事（延岡東R C研修委員会委員長）が短歌「おもひやるかのうす青き峽のおくにわれの生まれし朝のさびしさ」を朗詠。その後、出席者は牧水像前に並び、設置された大杯にひしゃくを使って牧水が愛した酒をささげた。若山牧水は1885年

8月24日、東郷村坪谷生まれ。牧水像は1986年、延岡東R Cが生誕100周年を記念して建立したもので、同R Cと若山牧水延岡顕彰会が毎年同日に生誕祭を行っている。今年は延岡総合文化センターの休館日と重なるため、前日実施となった。



手の動きに反応する仕掛け付きの「神話スポット案内」を楽しむ親子(延岡駅前複合施設エングロス)

神話の絵本と観光スポット

映像と音声で案内 延岡駅とエングロス

東北の神話や、それにまつわる観光スポットを映像と音声で案内する「神話スポット案内」のデジタルサイネージ(電子案内板)がこのほど、延岡駅前複合施設エングロスの2カ所に設置された。縦121センチ×横68センチの画面で、天孫降臨(高千穂町)、出逢(あ)いの聖地(延岡市)、お舟出(日向市)の神話を描いた絵本を、音声ナレーション付きで放映。モニター上部にはカメラセンサーがあり、人の動きを感知して連動する画面上の手のひ

らマークで、見たい神話を選択することができ、また、絵本に描かれている神様や風景のイラストを手のひらマークでタッチすると、「ポン」という鼓の効果音とともに絵が揺れたりする仕掛け付き。絵本は1話が3分程度で、最後に延岡市の城山公園や今山大師行

止め、モニターに手を伸ばしながら神話絵本を楽しんでいく。神話スポット案内は、現在開かれている第35回国民文化祭みやぎ2020と第20回全国障害者芸術・文化祭みやぎ大会を盛り上げる取り組みの一つで、設置期間は閉幕日の10月17日まで。期間中は毎日午前8時から午後9時まで利用できる。